

県南構想区域の状況（平成30年度）

具体的対応方針

1 役割（・・・特に地域において担うべき役割、・・・地域において担うべき役割）

		がん	脳卒中	心疾患疾病		糖尿病	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	議論の状況
				急性期	回復期								
長崎県島原病院	2018												協議済
	2025												
公立新小浜病院	2018												協議済
	2025												

2 病床数（2017年・・・平成29年度病床機能報告(平成29年7月1日時点)、2025年・・・公的医療機関等2025プラン）

		病床機能							議論の状況
		合計	高度	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	介護等	
長崎県島原病院	2017	250	8	242					協議済
	2025	250	8	242					
公立新小浜病院	2017	150		90	60				協議済
	2025	150		60	90				

【共通項目】

今後も2025年に向け、「公的医療機関等2025プラン」内の具体的な対応方針については、構想区域内の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、毎年、地域医療構想調整会議において協議を行い、必要に応じて見直しを行う。

この際、将来の病床数の必要量を見極めながら、公的医療機関等と民間医療機関の役割分担について、公的医療機関等でなければ担えない分野に重点化されているか確認するものとする。

なお、地域医療構想を進めていくに当たっては、医療機関の主体的な取組みや地域住民の協力が不可欠であることから、個別医療機関ごとの医療機能や診療実績、各種補助金や繰入金等について公表していく。

（協議事項）

- ・公的医療機関等と民間医療機関の役割分担（医療機能の変更等）
- ・将来の病床数の必要量を踏まえた取組

【個別医療機関】島原病院

長崎県病院企業団において、経営改善や病院再編等の方向性を示すものとして「第2次中期経営計画」（計画期間：2017～2020年度）を定めており、その推進や次期以降の中期経営計画の策定に当たって、地域の医療需要等の動向を踏まえた地域に必要な病床数及び病床機能の見直しについて検討を行った内容を、その都度、必要に応じて記載するものとする。

病院名	自施設の現状	自施設の課題	今後の方針		具体的な計画 (4機能の病床のあり方) 【一般病床+療養病床】			
			地域において今後担うべき役割		H28報告		2025	
長崎県島原病院	<p>県南区域における救急医療（3次医療含む）中核病院として高度な専門的な医療を提供</p> <p>がん：地域がん診療連携拠点病院として、各診療科の連携で集学的治療を実施。放射線治療装置の更新に合わせ、現在分散している薬物療法室、緩和ケア、がん相談室等のがん関連部門を機能強化・集約化したがん診療センターの整備を検討</p> <p>脳卒中：県南区域における地域脳卒中センターの指定を受け、救急隊、地域のかかりつけ医との間に脳卒中ホットラインを開設。脳卒中連携パスの活用により、切れ目のない継続した治療を提供。</p> <p>小児医療：関係団体の協力で平成26年度から、小児診療を再開。</p> <p>災害医療：災害拠点病院として、行政、地域の医療機関を含めた災害訓練や災害医療の講演会等を毎年度実施。</p> <p>救急医療：2次救急告示病院として断らない医療を推進し、県南区域外への患者流出減少に努めている。</p> <p>地域医療支援病院：地域の医療介護機関等との機能分担と連携強化を推進。島原メディカル・ケアねっとの更なる有効活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科的疾患にかかる高齢者増加に伴い、基幹病院として最低限の内科機能を保持するため10名以上の内科医師の人員確保が第一。 ・現在も需要の高い診療科における医師の複数配置が実現していない状況があることから、継続した医師確保に向けた取り組みが必要 ・県南区域の中核病院として、がんについての情報発信と質の高い医療の継続・強化。 ・県、市、医師会等と連携した小児医療体制の安定的な整備が今後必要 ・医療従事者の確保及び質の高い人材育成が必要。 ・ICTの活用などによる医療・介護連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・県南区域の中核病院として、救急医療の充実を図るとともに、地域医療支援、地域がん診療連携拠点、脳卒中センター、災害医療等、課せられた機能の更なる充実を図る。 ・「島原メディカルケア・ねっと」と「あじさいネット」の連携を図り、地域の医療機関や介護・福祉施設との情報交換を密にし、地域完結型の医療体制を構築。 ・地域包括ケア病棟を効果的に活用し、地域の医療機関や介護・福祉施設との役割分担や連携強化を推進し、地域の特性に応じたシステム作りで寄与する。 ・病院運営協議会や地域医療支援病院運営委員会の開催により、医療機能や経営状況等を地域へ発信するとともに、地域の意見を幅広く取り入れて、地域が必要とする医療を提供する。 	高度	8	現状維持	高度	8
				急性	242		急性	242
				回復	-		回復	-
				慢性	-		慢性	-
公立新小浜病院	<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者 1日あたりの入院患者：平成27年度は138.4人であり、平成23年度から増加傾向。 診療科別：内科、消化器科、循環器科、整形外科、脳神経外科では増加。 ・外来患者 1日あたりの外来患者：平成27年度は131.2人であり、平成23年度から増加傾向。 診療科別：内科、神経内科で減少。 ・診断群分類別患者数及びシェア 県南医療圏内において、DPC対象の4病院（当院、島原病院、泉川病院、愛野記念病院）と比較すると、耳鼻科、内分泌、小児、精神の割合が高く、今後患者の増加が見込まれる循環器、呼吸器などでシェアが低い。 ・地域包括ケアシステムとの連携を強化するため、地域包括ケア病床への一部転向を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現病院が築後48年が経過し、経年劣化が著しい状態のため、平成31年度中に新病院の建設竣工を図り、手術室の充実や透析室を新設。 ・都市部からの通勤に時間がかかり、県央地域への交通アクセスが不便 ・高齢者やその家族から簡易手術等は当院で実施してほしい旨の要望がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・島原半島西南部地区は、循環器科患者が多い傾向にあることから、脳外科・循環器の専門病院（救急告示）を目指し、県南地区の中核病院としての役割を担う。 ・将来的には、心臓病や透析、さらに社会復帰医療の観点から温泉を取り入れた回復期リハビリを展開する。 	高度	-	病床機能変更	高度	-
				急性	90		急性	60
				回復	60		回復	90
				慢性	-		慢性	-